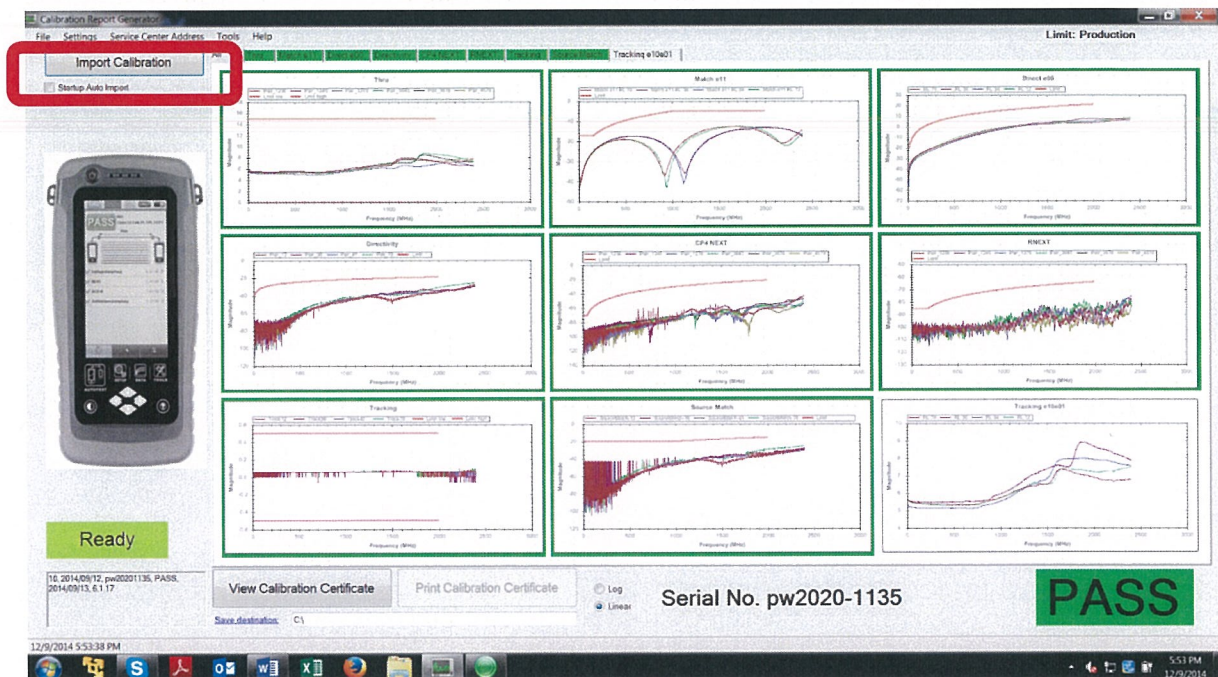


改訂日 2015年1月13日

## LAN ケーブルテスター『ワイヤーエキスパート WX-4500』 VNAアダプタ（研究治具）校正・試験 （校正レポート作成ソフト Ver1.9.4）

### 【事前準備】

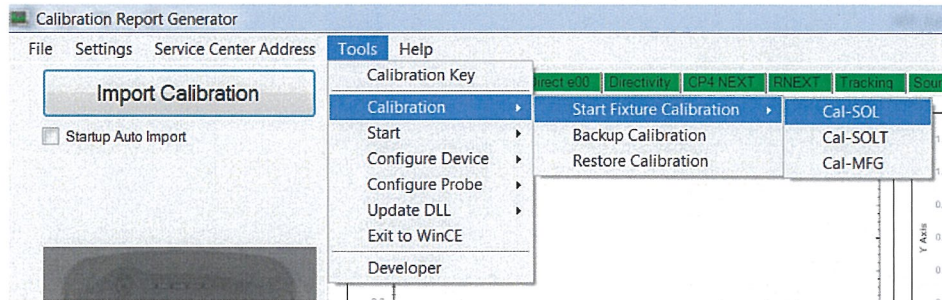
- ①Microsoft社のWEBサイトからWin7用“Windows Mobile Device”をインストールしてください。  
Win7 32 bit : <http://www.microsoft.com/en-sg/download/details.aspx?id=14>  
Win 7 64 bit : <http://www.microsoft.com/en-sg/download/details.aspx?id=3182>
- ②Microsoft社のWEBサイトから、NET Framework 4.5をインストールしてください。  
<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=30653>
- ③CRGをPCにダウンロード、インストールしてください。  
[https://www.dropbox.com/s/wykv9t1kd1n6e91/CRG\\_Setup\\_1.9.4.exe?dl=0](https://www.dropbox.com/s/wykv9t1kd1n6e91/CRG_Setup_1.9.4.exe?dl=0)
- ④インストールを開始してください。  
※NET 及び ActiveSync インストールがキャンセルになる場合、既にインストールされている可能性があります。
- ⑤デスクトップのショートカットから、プログラムを立ち上げてください。
- ⑥ライセンスキーを打ち込んで、ソフトウェアを開きます。  
※ライセンスキーは弊社よりご連絡します
- ⑦ワイヤーエキスパート セットアップ（治具の校正）
  - PC上の“校正レポート作成ソフト（Calibration Report Generator）”を開きます。
  - PCとワイヤーエキスパート間をミニUSBケーブルで接続します。
  - 接続が完了するのを待ちます。Windows Mobile が自動的にスタートします。
  - ワイヤーエキスパートからデータが自動的にインポートされ、メイン画面上にプロットが表示されます。
  - ※データが自動的にインポートされなければ、Import Calibration をクリックしてください。



## 【治具の校正】

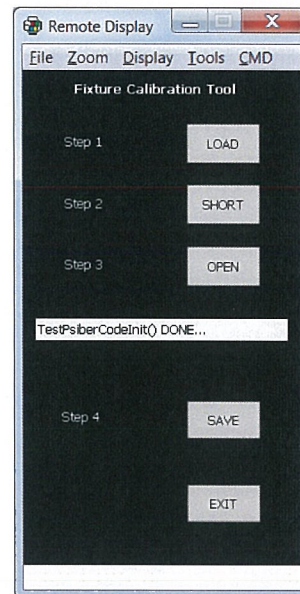
①治具を校正します。

－ツール (Tools) →校正 (Calibration) →治具校正を開始 (Start Fixture Calibration) →Cal-SOL を選択します



－校正アプリケーションがワイヤーエキスパート上で開始します。  
※より詳細な校正順序は、以下の通り

“LOAD Standard” に接続 □ テスタの “LOAD” をクリック  
 “SHORT Standard” に接続 □ テスタの “SHORT” をクリック  
 “OPEN Standard” に接続 □ テスタの “OPEN” をクリック  
 テスタの “SAVE” をクリック



②校正データを確認します。

PCにある校正レポート作成ソフトにある “校正をインポート (Import Calibration)” を選択してください。“PASS” が表示されて入れば、校正が問題なく完了しています。(治具の品質によって FAIL になる場合があります。)

③NEXT・RL ベースラインを確認します。

- －ワイヤーエキスパートの電源を落とし、3 秒後、再度電源を入れてください。
- －規格で TIA Cat 8 チャンネルを選択してください。
- －“LOAD” プラグを治具に接続します
- －オートテストを開始します
- －NEXT・RL プロットを確認します

リモートユニットの校正についても、先述の手順にしたがって実施ください。

## 【片端・両端試験】

- ①規格を設定します。
  - TIA Cat8 チャンネル : チャンネル試験 (RJ45 コネクタ使用)
  - ISO Class II ドラフトチャンネル : チャンネル試験 (TERA/GG45 コネクタ使用)
- ②リファレンスを設定します。
  - VNA アダプタを搭載させたメインとリモートユニットに、短いケーブルを接続させます。
  - ツール→リファレンス設定を押します
- ③オートテストを実行します。
  - オートテスト→NEXT ・リターンロスのプロットを確認します
  - リモートユニットが接続されていれば、ワイヤーエキスパートは自動的にケーブル両端から試験を実施します。

## 【バックアップ&校正データの保存】

- ①PCの校正レポート作成ソフトを開きます
- ②PCとワイヤーエキスパートの間をミニUSBケーブルで接続します
- ③校正をインポートします
- ④ツール→校正→バックアップ校正 ( Backup Calibration) を選択します
- ⑤現在の治具の校正データがPCにバックアップされます。
  - ツール→校正→保存
  - 保存したい “校正データ” を選択します。 .
- ⑥複数の校正データがPCにバックアップ保存可能です。

重要 : “工場出荷時の校正 (Default Factory Calibration)” がバックアップされているかをご確認ください。これは、ワイヤーエキスパートアダプタのインターフェイスでの校正データで、チャンネルとパーマネントリンク試験が要求されます。

## 【改訂履歴】

- ・May 29, 2013 : Continues with AutoTest even when some pairs are disconnected or reverse.
- ・July 11, 2013 : Update ReportXpert Ver 5.0.3
- ・Aug 23, 2013 : Updated Software Version 5.1.2 for 2.5 Ghz Testing
- ・Sep 14, 2013 : Updated Software Version 5.1.19
- ・Feb 21, 2014 : Update Software Version 6.0.1
- ・Nov 28, 2014 : Update Software Version 6.2.6

以上